第20期町田市立図書館協議会

第5回定例会議事録（要旨）

日時 2024年5月17日（金）14時～16時
場所 町田市立中央図書館 6階中集会室
出席者 (委員) 松本 直樹、山中 朗、大石 眞二、中川 妃菜
福田 有美子、高橋 峰子、吉田 和夫、二川原 陽一
若色 直美
リモート参加 仲村 拓真
(事務局) 図書館長、図書館副館長、図書館担当課長
図書館職員8名
傍聴者 2名

○事務局 ただいまから「第20期第5回町田市立図書館協議会」を開会いたします。

会議に先立ち、事務局から何点か報告をさせていただきます。今回からC委員が新しくご就任いただきましたので、どうぞよろしくお願いたします。委嘱状は机上にお配りしておりますので、ご確認いただきましてですね、後ほどご挨拶いただければと思いますので、よろしくお願いたします。本日の会議ですが、委員10名、全員ご出席いただいております。定足数を満たして会議は成立しております。1委員はオンライン会議でご参加となります。

次に、本協議会は、「町田市審議会等の会議の公開に関する条例第3条」に基づき、公開が原則となっております。本日の傍聴についてですが、傍聴人の方が2名お見えになっております。

続いて、配布物の確認ですが、会議資料につきましては、お手元に配布資料一覧をお配りしておりますので、ご確認いただき、不足などあれば随時事務局スタッフにお声がけください。

それでは、委員長、会議の進行をお願いいたします。

○委員長 それでは、皆さん、どうもお久しぶりです。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、次第1の委員の委嘱についてということで、資料1をご覧ください。先ほど事務局から紹介がありましたが、学校教育の関係者の選出区分にて、J委員に替わりまして、新たに町田市公立中学校長会からC委員においでいただいております。どうぞよろしくお願いたします。

す。

では、C委員から一言ご挨拶をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○C委員

改めまして、皆さん、こんにちは。

前任の木曾中学校校長のJ委員が、私と同じ年なんですけれども、役職定年を機に校長を辞しまして、今はほかの中学校で教員を、国語の先生をやっております。私はそのまま校長職にとどまっておりますけれども、もう5年前、6年前ですか、二、三年、ご無沙汰の方が結構何人かいらっしゃるんですけれども、委員の方を務めさせていただきました。久しぶりですので、もうかなりいろいろ忘れてしまっているかと思えますので、初心者のつもりで頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長

では、次の議題に移りまして、次第の2、図書館からの報告事項です。では、図書館からお願いいたします。

○事務局

それでは、資料2をご覧ください。

まず項番1、今年度の図書館の体制についてです。職員は総勢で百数十名おりますので、各部門の責任者でございます役職者をお示しております。ご覧のとおり、4月の異動で新たに4名の係長が着任しております。個々の挨拶はちょっと割愛させていただきますけれども、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

また、4月1日付で組織改正を行っております。表の下の米印に記載しておりますけれども、来年度の鶴川図書館の民設民営化を控えまして、鶴川地域図書館サービス係を廃止いたしまして、鶴川図書館の運営と鶴川駅前図書館の監督業務を企画・地域支援系の管轄といたしました。

続きまして、次のページ、項番の2、市議会の動向でございます。3月の市議会は、図書館関連では、まず①予算の議案がございました。1つは、昨年度分の光熱水費の補正予算で、メインとなるのは今年度、令和6年度の当初予算となっております。主立ったものを抜き出してこちらに記載しておりますけれども、まず、図書購入費は約3,600万円、前年比15万円増ということで、微増でほぼ前年並みという形になっております。

次に、システム導入委託料約1億1,000万円ですが、来年の3月

に図書館システムが10年ぶりに全面更新を迎えます。10年前は、ICタグとセルフ貸出機を導入いたしまして、当時、業界最先端のものでございました。今回の更改では、さらに来館することなく自宅でスマホから利用登録ができるようにしたいと、そんなふうに考えております。そうなりますと、電子書籍などを使っている方なんかは、図書館に一切足を運ぶことなく利用が可能になるということになります。なお、システムの更改に伴いまして、2月から3月にかけて全面休館をする予定でございます。詳細が決まりましたら、別途お知らせ申し上げます。

続いて、図書コミュニティ施設運営委託料、こちらにつきましては、来年度、鶴川図書館の民設民営化の準備や、この3月にスペースが広がりましたコミュニティスペースの運営に関する委託料となっております。

さるびあ再編の意見聴取等の140万円というのは、2026年度に集約方法を決定するというようになっておりますので、それに向けて無作為抽出のアンケートであったり、利用者向けのワークショップ等を開催する予定となっております。その費用です。

次に、②文教社会常任委員会ですが、今申し上げた当初予算の審議がなされたほか、鶴川図書館について行政報告をしております。行政報告の内容につきましては、後ほど担当からご説明させていただきます。

③一般質問についてですが、2名の議員からご質問いただきました。森本議員の質問につきましては、鶴川駅前図書館の指定管理の労働条件モニタリングに当たり、毎年事前に社労士の研修を受講して取り組んでいると、そんな旨をお答えしているところです。熊沢議員のご質問につきましては、特に子どもを焦点に当てた取組を求める、そんな趣旨でのご質問でしたので、我々の目指す姿として、子どもの読書活動を推進する図書館というのを目指す姿の一つとして掲げておりますので、それに基づく各種取組を実施中である旨をお答えしているところでございます。

続いて、項番の3、教育委員会の動向です。3月の第12回定例会では、これまで幾度か経過をご報告してきました教育プランの策定について、教育プランが決定しております。資料3として図書館の重点部分のみ抜粋したものを参考に添付しております。これまでの報告の内容とか、直近では市民意見募集の段階でのものをお示ししておりますので、そこからほかは変更がございませんので、今回はご紹介のみとさせていただきます。なお、全文は既に町田市のホームページに掲載さ

れておりますので、ぜひお時間があるときにご覧いただければと思います。

次に、4月の第1回の定例会では、議会でも報告しました鶴川図書館の件と委員の皆様にもご協力いただきましたPOPコンテストの結果を報告しております。こちらにつきましても後ほど担当から報告させていただきます。5月の第2回定例会では、当協議会の委員の変更が議題となっております。先ほどご紹介のとおり、前任のJ委員に替わりまして、C委員に委嘱する旨が正式に決定しているところでございます。

項番4につきましては、担当から報告いたしますので、飛ばしまして、最後、項番5、その他についてでございます。堺市民センターの改修工事に伴う堺図書館の休館について報告させていただきます。今年の秋頃から堺市民センターが比較的規模の大きい改修工事をいたします。工事の範囲が堺図書館にもかなり及ぶという形になりまして、来年の1月頃から6月頃まで、ちょっと長い期間になるんですけども、休館することになりました。先ほど申し上げたシステムの更改に伴う休館と期間がかぶるといような形になります。こちらもう少し詳細が決まりましたら、しっかり広報してまいる予定でございます。なお、システム更改以外の休館の期間は、予約本の受渡しは何とかやる予定であります。

では、戻りまして、項番の4、各種計画に基づく取組につきましては、担当からご報告させていただきます。

○事務局

資料4-1をご覧ください。鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について報告いたします。

項番1、図書コミュニティ施設への転換に向けた施設改修についてです。2024年2月1日から3月11日まで、フロアレイアウトを変更するとともに、コミュニティスペースの創出をする改修工事を実施いたしました。新しく設置したテーブルや椅子は今まで鶴川図書館で使用していた書棚を活用して作成しました。改修後のレイアウトは資料4-2としてつけております。

続いて、項番の2をご覧ください。2023年11月に設立された図書コミュニティ施設の運営団体が企画したイベントを新たに創出したコミュニティスペースを活用して実施いたしました。イベント名を「“ともに語ろう！新たなコミュニティ” まずはおしゃべりから始めよう」と題しまして、3月17日の11時から15時まで実施しました。当日は地域の魅力を地域の方々と語り合うトークセッションや羊毛フェルトな

どを使った工作、認知症当事者の方やご家族が交流できる場であるDカフェの開催、本棚作りや読み聞かせの体験会を実施いたしました。特に羊毛フェルトにつきましては、絶えずお子様連れのご家族が参加しているような状態で、定員を全て満たしております、団体さんも普段こういうイベントをやられているということで、運営にもすごく慣れていらっしゃることもありまして、大変好評でした。

資料4-3がイベントのチラシとなっております。

次に、項番の3をご覧ください。2024年度は、公立図書館として運営することと並行して、図書コミュニティ施設運営団体の取組を支援してまいります。運営団体の取組は大きく3点ございまして、1点目は、運営体制の構築などの2025年度の民設民営化に向けた準備、2点目がコミュニティスペースを活用した学習支援やおはなし会などの定期的な開催、3点目として、項番2で紹介したようなコミュニティ形成などに関するイベントの実施となっております。

それでは、最後に、項番の4をご覧ください。今後のスケジュールです。まず4月からは、項番3でも申し上げましたけれども、運営団体によるコミュニティ機能の運営や民設民営化に向けた準備を開始しております。その後、2024年9月には町田市立図書館条例の一部改正について議案として上程させていただく予定となっております。議決をいただきましたら、2025年3月末で公立図書館としての運営を終了し、2025年度から民設民営の図書コミュニティ施設として運営を開始する予定となっております。

説明は以上です。

○事務局

「押し本を伝えよう！ひとことPOPコンテスト2023」の開催結果についてご報告いたします。資料5をご覧ください。

委員の皆様には、図書館協議会賞の選考にご協力いただき、ありがとうございました。結果につきましては、皆様へメールでお送りしておりますが、図書館協議会賞としましては、この緑のしおり、「その本は」の作品が受賞いたしました。本日、しおりになったものを皆様のお手元にお配りしていますが、その他の賞につきましては、最優秀賞「こころ食堂のおもいで御飯」、優秀賞「小さい“つ”が消えた日」、図書館長特別賞「アルジャーノンに花束を」が受賞いたしました。受賞された皆様とは、3月30日に授賞式を行っております。また、このしおり自体は4月15日から図書館や協力書店などで配布をもう既にさせていただいております。なくなり次第終了となりますので、もしかしたら、本屋

さんとかはもう置いていないかもしれませんが、よろしく願いいたします。

報告は以上となります。

○委員長 ありがとうございます。ということで、図書館から各種報告をいただきました。何かご質問とか、あるいはご意見があればお出しいただければと思います。いかがでしょうか。

ないようですので、私の方で幾つかよろしいでしょうか。先ほどご報告、項番の2で、(1)の①の図書館コミュニティ施設運営委託の説明がありました。当初予算1,600万円ということなんですけれども、これは次年度以降、どういう計画になっているかというのは、分かる範囲でご説明いただきたいなと思います。

○事務局 次年度以降につきましては、今年度準備を整えて、2024年度から民設民営化ということで、図書館ではない施設として1年間通して運営していただく形になりますので、それに対する運営費の補助金という形で支出していく部分と、あと図書館の機能として、予約資料の受渡し等を南町田のまちライブラリーと、あと久美堂さんなんかでもやっていたいていますけれども、そのような部分を担っていただきますので、その点に関しては、もともと本来図書館がやる業務を団体さんにやっていただくということで、そちらは委託という費用で見ようというふうに考えています。

○委員長 幾らぐらいになるかというのは。

○事務局 これから予算の要求とかになりますので、何とも言えないんですけれども、しっかりと団体さんが運営できる補助金というか、そういったものを想定しております。

○委員長 分かりました。

○H委員 すみません。コミュニティ施設の方なんですけれども、大体何人のスタッフが運営する形になって、週何回入ってとかというのは決まっているのでしょうか。

○事務局 その点について、今まさに団体さんと話をさせていただいているとこ

ろなんですけれども、もともとの我々の想定としては、あくまで鶴川図書館の同等程度というところで考えていますので、図書館は年間300日ぐらいで、10時から5時ですとか、10時から6時までという開館をしておりますので、基本的にはそれがベースになるのかなというふうには考えています。その人数がどれぐらい必要かとかというのも、開館日時によって左右されてきますので、これから調整させていただくところかなというふうに思います。また詳細が分かりましたら、ご報告できればと思っております。

○H委員 お安い気がするんですけども、320日ですか。

○事務局 300日です。

○事務局 図書館が300日ぐらいです。

○H委員 300日、それを1日で割ると、もうちょっと頑張っていたらいいなと思っている次第です。よろしくお願ひします。運営は大変だと思う。
今年の予算ということですね。

○事務局 今年とまた来年は、大分趣が変わってくるかと思ひます。今年度はまだ1年間は公立図書館として、我々職員もしっかりとフルメンバーがそろった状態でおる中での準備という形ですので、ちょっと……。

○H委員 あくまでも準備の……。

○事務局 準備と、まだいろんなコンサルティングを受けながら、そういった事業をしておりますので、そういった費用も含めてです。

○H委員 分かりました。ありがとうございます。

○G委員 システム導入委託費ということで億単位、まさに大盤振る舞いかというふうに思ひますが、これは今年度で全面更新終わりという形でしょうか。まずそれが1つです。

それから、図書館システムというのは、中央館だけじゃなく、ほかの図書館、さるびあなんかも含めていくのか、それともどういうふうにな

るか、システムというのがちょっと分からない。これが高いか安いかは僕にはよく分からないんですけれども、例えば機器の問題と、それからシステムを導入するに当たっての設備的な問題とか、そういったものも恐らく入るのかなとか、これは委託になるんだろうと思うので、中身がなかなかよく分からないんですけれども、その辺、今年度だけのものなのか。それから、ほかの館にも影響するのか。システムというDXでプラスアルファ施設とか設備なんかのほかにも影響するか、ちょっとお答えいただければと思います。

○事務局

まず、入替え自体は今年度中に行います。今年度3月ぐらいを踏まえて、ちょっとお休みをいただきますけれども、その間にやります。ただ、ここから向こう5年とか10年、一旦は5年の契約をして使ってもらいますので、その後も5年間使うんですけれども、今回、ここに書いている1億円というのは、あくまでシステムをセットアップして使える状態にするということでして、さらに実はこれを向こう5年間使っていきますと、システムの使用料がかかってまいります。かなり高額だとは思いますが、それでも今入れているシステムよりも、5年総額では安い金額でできるように、今回プロポーザルとかを経て、業者選定を経て、そういった形での選定をしております。

この図書館システムというソフトウェアももちろん丸々変わるんですけれども、図書館のシステムは、結構バーコードを読んだりとか、先ほども申し上げたとおり、手前どもの図書館の場合は、自動貸出機とかが各館に装備されていたり、あと特定の館にはセルフで棚の位置が分かるというか、予約の本を勝手に持って行って、勝手に借りていくというシステムとかも導入されていますので、そういった機器類も今回全面的に入替えになりまして、これは中央だけじゃなくて、全ての館に及びますので、ソフトウェアと全てのハードウェア、これの入替えという形になります。

○G委員

要するにコンテンツについて、いわゆるデジタルコンテンツってありますよね。それもまたなかなかのお金がかかっている、何に対して分からないんですけれども、デジタルの教材とか、本とかというのはやっぱりそれなりに経費がかかるのですが、その辺もこの中に入っているんですか。それは別なんですか。

○事務局

それはちょっと別になります。

- G委員 システムを入れると、今度はコンテンツの問題があるので、例えば電子書籍をどの程度入れるんだとか、電子書籍が例えば学校や子どもたちに使えるのかとか、その他もろもろ、例えば近隣の方たちが多分図書館に借りに来ると思うんですね。そういう方たちが使うことができるのか、使えるとしたらどのくらいなど、幾つかの疑問があるのですが、その辺、また教えていただきたいと思います。
- I委員 私から2点と、今、G委員から質問があったことに関連しましてお尋ねするんですけども、ここ数年間、ずっと地域資料のデジタル化を進めるという話があって、一方で、予算が確保できなくて、何もしていないままほぼ続いているという状況があったんです。資料のちょっと先の方を見ますと、2024年度の予算を確保できたというのが、先の資料の方に入れてあったんですけども、ここでいう予算というのは、今回の議案の中の予算に含み込まれているのか、それとも外部予算か何かを取ったものかというようなことをちょっとお尋ねしたということです。
- 委員長 先の方というのは、I委員、どちらの資料にございましたか。
- I委員 資料6をちょっと先に見ていたんですけども、そのこの図書館の取組の中に、資料6の裏面、5-6に地域資料の活用の推進というので、毎年地域資料に関する取組が進んでいないんですけどもというコメントがついていたと思うんですね。それに対して、デジタル化について2024年度分予算を確保しましたと書いてあるので、これが今回の行政の予算に組み込まれているのか、それとも何か別の外部予算から取ってきたのかということです。
- 事務局 予算的には、いわゆる町田市の予算、町田市の自治体としての予算でやっております、今回ちょっと補助金とかもいろいろと検討していた中で、何とかそれが確保できそうなところもありまして、いろいろと予算の折衝とかを積み重ねた結果、一応地域資料のデジタル化というところで予算が確保できたというところでございます。
- I委員 というのは、この中の、例えば1点ですと、図書購入費とかとは別のではなくてということですかね。

- 事務局 算定は別になりますので、別の予算という形にはなりません。
- I委員 なるほど、ありがとうございます。継続的に確保されたらよいと思いますし、また、先ほどのG委員の話にちょっとつながりますけれども、図書館の勉強席ですとか、いろんなコンテンツと一体化して進められたらいいなというふうに思っているところです。
以上です。ありがとうございます。
- F委員 ちょっと話を戻して申し訳ないんですが、先ほどコミュニティ施設運営が補助金と委託料というお話だったんですけども、今機能しているところへの委託料というのは、大体どのぐらいの額なんですか。
- 事務局 今、今年度の話ですか。
- F委員 はい。2か所に委託していますよね。南町田と久美堂でしたか。それは決算か予算は何か意味がある。委託料として明確に出ているものなんですか。あるいは南町田は図書館みたいな形をしているところな訳ですよ。それから1つは、民間企業に頼んでいて、その払っているレベルは一緒でいいの。今度、先ほど言った鶴川も同じレベルで委託料が支払われるという理解でいいのでしょうか。
- 事務局 まず、久美堂の方については、指定管理者を入れている関係もあって、自主事業としてやっています。南町田については、我々が単純にお願いをしてやってもらっているの、その大きな違いがあります。なので、規模感としては、南町田に近い形で新しい図書コミュニティ施設に我々の仕事を依頼するという形になります。
- F委員 では、金額はよく分からない？
- 委員長 今すぐは分かりません。
- F委員 分かりました。
- 委員長 浦安なんかは駅前に施設を設けてやっているんですけども、委託料が大分かかるようです。随分かかるなという思いがありますけれども、ただし、施設を持っていたり、職員が兼ねてやるのかとかで随分変わっ

てくると私は思っています。いずれにしても、今の時点では分からない。でも、南町田に近い形になるんじゃないかということですね。

今ふと思ったんですけれども、先ほど副館長の話で、今年度は市の施設としてやるという話をして、そうすると、委託料等は発生しないのではないかと思ったんですけれども。それはどうして発生するんですか。

○事務局

まずは、図を見ていただくと分かるんですけれども、今までは過ごすスペースでなくて、全部本棚で埋まっていたので、新たに活動するスペースができましたので、そこでイベントの活動であったり、今後やっていただくようにするのですとか、そういったところの活動時の部分が一部委託になるというのと、あとはそもそもの今後の、来年度に向けた準備について、いろいろと改修工事とかももう1回やる予定なんですけれども、そういったような費用であるとか、あとコンサルティングとかも外部から受けていますので、そういったところの費用を合わせるとという形になります。だから、団体さんにもそういう意味では活動を委託している部分がありますし、それ以外、ほかの外部にも委託している、そんな状況です。

○委員長

分かりました。

ほかに2点、町田市教育プランについてございます。1点は、これはもう公開されて正式にということですので、今さら言ってもしょうがないことは理解していますし、前も言ったことではあるんですけれども、教育プランは図書館協議会の審議事項として協議をした訳ではなかったと思います。たしかに、意見を求めるということはしていただいた訳ですけれども、協議会で協議をするということはなかったと私は記憶をしています。教育プランは、やはり図書館の非常に関わりのあることですので、そうした進め方にはかなり違和感があります。もちろん、違うところで審議していて、そこに図書館協議会のメンバーが入っているのかもしれないけれども、やっぱりこういった図書館に関わる計画については、ここで審議ができるといいというふうに1点思いました。

もう1点は、この教育プランの125ページでさるびあ図書館と中央図書館の集約が書かれています。2025年までに対話・検討で、その後集約方法の決定となっております。鶴川の事例もありましたが、やはり慎重に地域の方とよく話し合いをしていただきたいと思いますし、この集約というのは、例えば公共施設等総合管理計画で考えたときには、2つの同種の施設を1つにすることを集約と言いますので、この文脈で

例えば、明らかにさるびあがなくなるということです、そこら辺もちゃんと地域の方に伝わる形で話を進めていただきたい。ぜひ、お願いできればと思います。

ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、第2議題は以上とさせていただきます、次の議題に移ります。

次第3、外部評価に基づく図書館の取組についてです。では、事務局からお願いします。

○事務局

昨年度は2022年度実績の外部評価を行っていただきましてありがとうございました。1年ずれてしまうようなことで大変申し訳ないのですが、今回のものは21年度の外部評価をしていただいた内容で22年度、23年度に図書館が取り組んだ内容を一覧にしましたので、ご覧いただければと思っております。資料6をご覧ください。

外部評価をいただくのが、どうしても実施年度の次の年度の終わり頃になってしまうため、2021年度の外部評価の反映が、22年度は少しで、主には23年度に実施するというような形にどうしてもなってしまいますので、委員の皆様が一体いつの話かと思われてしまうかと思っておりますが、一応ご報告ということでまとめさせていただいております。

22年度、23年度に行った図書館の取組ということで書いてありますので、22年度につきましては、外部評価も行っていましたので、ご報告した内容が多いのですが、23年度につきましては、今後ご報告する内容になるため、細かい内容についてはご容赦いただければと思います。

表の見方といたしましては、外部評価をいろいろいただきますが、様々なコメントの中で、この文言に対応する内容がこれと分かるように抜き書きをさせていただいております。番号をつけて外部評価の文言がこれ、図書館の取組がこれ、ということで対応番号をつけて記入しています。例えば最初の取組番号2-3の子ども読書活動の推進ですが、評価コメントの中で、推進会議に関する記述がございまして、それを①とさせていただきます、それに関連した取組として、資料を図書館のホームページへの掲載等をいたしましたということで図書館の取組の①の方に記載をしております。表を見ていただくと、なかなか大きな取組はできなくて、小さな工夫や、少しずつの改善、微細なことが多いので、ちょっと申し訳ない感じもするのですが、少しずつでもよりよい事業ができればというふうに取り組んでおりますので、今後とも評価の方をよろしく

お願いします。

○委員長

ありがとうございます。図書館協議会で例年評価をしている訳でございます。その評価で、図書館協議会が指摘した事項について、実際にどういった取組が行われているかというのがなかなか見えないということで、昨年度から、図書館側から取組状況を教えていただいております。ちょっと昔の話にはなってしまいますが、昨年度、あるいはその前年度の図書館での取組ということについて報告がありました。ご覧いただいて、何かお気づきの点等がございましたらご発言いただければと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

本来であると、この前やった評価のものに対する取り組みを知りたいわけですが、年度上、どうしてもそうになってしまうので、これはしょうがないですね。そこら辺、別の図書館では、年度途中で評価をしまして、年度途中で図書館が次年度の計画に反映できるような、そうしたことをやっているところもございます。ただ、今のようなやり方だとなかなか難しい。

○G委員

前から図書館評価についていろんな課題があったりして、それを協議しているんですけども、やっぱり今、委員長がおっしゃったように、本当は23年度の評価が24年度となる訳なんですよね。だけれども、24年はもう教育プラン24から28までが入っている訳ですから、そういうことを踏まえて評価をもう少し重層的にする必要があるんじゃないかなと思うんですね。だから、ちょっと図書館の意向が入っていないんじゃないかというのがありましたけれども、オンラインによってI委員が生涯学習審議会に入っていますし、そういう意味では、一応は考えてはいるんですけども、やっぱり24から28という長いものなので、そのときごとにやっぱり振り返って点検、評価していくだろうと思うんですね。ですから、それに何か判定できるような評価ということを考えてみると、これは、22年度はこうなっていて、23年度はこうやっていますというようなことなので、今度、23年度のを24年度に評価するときに、24年度の方から見てこれはどうなのかということも含めて評価していく必要があるんじゃないかと思うんです。

だから、そうすると、少し評価の前倒しをしないといけなくなる可能性があって、本来は、今、委員長がおっしゃったように、年度末には来年度の方向性みたいなものを評価も踏まえて出てくるというのが、PDCAサイクルじゃないけれども、それによって次のビジョンを見つける

という意味では、それがすごくいいんじゃないかと思って、コミュニティ・スクールなんかの学校もだんだんそのようになってきてはいるんです。ですから、ぜひ図書館もそういう方向でちょっと考えて、もう24年からの教育プランが出てきちゃっている訳ですから、それを踏まえて、23年度を見直して、その方向を、次の年もこういうふうにやります、この次はこういうふうにやりますみたいな形で事業を終わらせていただくのがいいかなというふうには、これは前から言っているような気がするんですけども、思います。

○委員長 ありがとうございます。今、G委員がおっしゃったのは、これだと実際の取組を一番右の列で、そちらの方にまとめていただいているんですよ。もう少し今後の取組の方向性みたいなものをまとめてもらうというようなことも考えられるということですか。

○G委員 ここでは無理でしょうけれども、もう少したったらできるんじゃないかという、前期の終わりぐらいではそれが出てきてもいいと。

○委員長 ありがとうございます。ちょっと検討していただければと思います。

○I委員 今の図書館評価に関連して、単なる意見なんですけれども、年度のずれの問題もあると思うんですけれども、今後、計画なども変わるに際して、この数字がどうなるかは分からないところもあると思うんですが、私はまず、図書館協議会で図書館の評価をするという視点では、市民参加などの観点からすると、とてもよい形だというふうに思っていて、様々な図書団体の規範的なブースの中でも図書館協議会が発表することみたいなことが言われていて、そういった点では、今後も続けてほしいと思っているのがまず1つであります。

それからもう一つは、今回その評価をした結果として、その反応というか、対象というか、実行結果が図書館から示されたということは、それはかなり一方的なことだと私は思っていて、つきましては、評価をするけれども、それぞれ文書としては終わりということが多いと思うんです。ですから、ぜひこの図書館の取組の結果、評価に対してこうしましたというのを積極的にウェブサイトなどで公表していただきたいと私は思うんです。図書館協議会の資料の一部として市民の方々に共有されることはあると思うんですけれども、それだけではなくて、図書館協議会では毎年こういう評価をする。それに対して、図書館ではこういっ

たような改善の取組をしていますというようなことを、時間差があってもいいですから、セットで公表するような仕組みがあった方がよいかなと私は思っています。

○委員長

ありがとうございます。図書館協議会の資料の中に埋もれさせないような形で、私からもお願いできればと思います。

ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、外部評価に基づく図書館の取組については以上とさせていただきます。

続いて、第五次町田市子ども読書活動推進計画についてということで、事務局の方からお願いします。

○事務局

第五次町田市子ども読書活動推進計画についてご説明いたします。

まず、検討状況といたしまして、4月に第3回の策定委員会を行いました。本日はその際と同じ資料をお配りしております。今回は、計画全体の構成について、章立てや内容の点と計画に足りない点などをご確認いただき、ご意見をいただければと思います。ちょっと駆け足にはなりますが、各章をさっさとご説明させていただきたいと思います。

では、最初に、資料7-1、第1章をご覧ください。表紙の次に目次が来ますので、まずは目次をご覧ください。ページ数は取りあえぬ数字が入っているだけなので、お気になさらないでいただければと思います。まずは全体の構成としては、第1章、町田市子ども読書活動推進計画の概要、第2章、子ども読書の状況、第3章、計画の基本的な考え方、ここが基本理念、基本目標の部分になります。第4章としまして、計画の取組の並びとなります。第3章は、計画骨子と視点についてとして以前お出ししていたものとなります。第4章は、図書館と各課から出した取組の一覧となります。計画の構成としましては、この後ろに参考資料等をつけさせていただいて、法律等、基になるものとかを掲載する予定でございます。また、コラムを掲載する予定ですので、空いているスペースなどに入れていこうと思います。コラムで紹介する言葉などは、体裁を合わせてから注釈の位置などの見直しをしていきたいと思っております。

では、改めまして、第1章の内容をご説明いたします。目次から進み、第1章の扉が来て、第1章、町田市子ども読書活動推進計画の概要になります。まず1、計画の意義と目的として、法律に基づいて策定していることと、第一次計画からの計画の変遷を述べております。

2、計画の位置付けと3、計画の期間では、再度になりますが、法律に基づいていること、町田市計画としては、町田市教育プランは上位計画であること、町田市子どもマスタープランと連携していること、計画期間は2025年度から5年間ということを述べております。

4、計画の対象となる子どもの年齢で、対象がゼロから18歳までの子どもとなること、5、推進体制では、計画は進捗管理を町田市子ども読書活動推進計画推進会議に諮っていくことを述べております。

資料7-1は以上となります。

続きまして、資料7-2、第2章をご覧ください。第2章、子ども読書の状況になります。最初に、1として、国の動向です。第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画について記載をしております。

次に、2、東京都の動向として、第四次東京都子供読書活動推進計画について記載をしております。

3のところで、3、町田市の現状と課題は、(1)から(3)に分けて町田市のことを述べております。

まずは、(1)第四次町田市子ども読書活動推進計画策定後の動向になります。社会状況を踏まえて全体的なところを述べております。①では、図書館のコロナ禍から再開までのことと、②では、デジタル化が進んでいく状況として、デジタルミュージアムや電子書籍サービスの導入までのことと、学校についてはタブレット端末の配備と電子書籍のID付与などを述べております。また、③では、読書環境を充実させる取組として、ここまちベースと久美堂本町田店の受渡しサービスについてと高校生、若者世代への取組の一つとして、図書館プランナーの取組を挙げております。

(2)子ども読書の現状では、①で第四次町田市子ども読書活動推進計画の取組状況について述べております。おおむね計画どおりに進んでいること、状況がコロナ前に戻ってきていることを述べております。②では、今この会議で話し合っていることですが、図書館の現状として、市民参加型事業評価での若い世代への活用、周知について意見をもらったことと、取組はいろいろ変わっていくけれども、自習スペースを求める声などがあることを記載しております。③として、町田市の不読率の状況です。不読率とその理由として、読みたい本がなかったから、本を読むことに興味がないから、本を読む時間がなかったからを挙げております。また、本を読むことが好きな子どもの割合は、学年が上がるごとに下がっているということを記載しております。この記載の後に、調査の結果を表にしたものをつけております。

(3) 子ども読書の今後の課題では、(2)の現状を踏まえ、①として、今までの取組に加え、国の計画でも重要視されている読書に興味を持ち続けられるように、同世代が行う取組のこと、②として、デジタル化への対応、多様な子どもたちへのアクセシブルな本の整備やその周知を述べております。また、そのような取組や環境を支えるためにも、人材が大切ということ③で述べております。次の第3章で述べる基本目標ⅠからⅢのきっかけ、環境、人材に対応するように①から③まで記載しております。

4、成果指標として、この計画としての成果指標を設定しております。本を読むことが好きな子どもの割合と1か月に一冊も本を読まない子どもの割合について目標を設定いたしました。

資料7-2は以上でございます。

資料7-3の第3章をご覧ください。第3章、計画の基本的な考え方になります。扉の下部には、計画中の用語についてとしまして、用語の定義を記載いたしました。

続きまして、1、基本理念、2、基本目標については、計画骨子と視点についてで、以前にご覧いただいたものになります。その基本目標に取組グループをぶら下げたものが、3の計画の体系になります。

資料7-3は以上でございます。

続きまして、資料7-4、第4章をご覧ください。第4章、計画の取組になります。

はじめの1、取組一覧は全体を表にまとめており、次の2、個別の取組で内容や今後の方向性を記載しております。取組に関しましては、各課に提出いただいた文言から修正を加え、3月に行った作業部会でさらに追加修正を加えております。全体的になるべく簡単な分かりやすい文章に変更いたしました。一覧にも、個別にも、教育プランに掲載しているものに丸をつけておりまして、第四次計画からの新規、継続が分かるように表示もつけております。

資料7-4は以上でございます。

次に、資料7-5、コラムについてでございますが、掲載する予定のコラム案になります。まず電子書籍サービスについてです。電子書籍サービスの概要と学校連携についての紹介をさせていただいております。

次が、「YAって知ってる？」ということで、若者向けサービスとしてTEEN LIBRARY (YAコーナー)、中学生・高校生向けグループ学習室のわいわいキャレルなどをご紹介します。

次に、コラボ特集としまして、各部署とコラボ特集を定期的に行って

が、まず1つは、この読書推進計画の7-1の7ページを見ると、それぞれかぶっているの、なかなか難しいですね。国の場合がいつからいつまで、それを受けて東京都がいつからいつまでと、そういうふうにずれているので、でも、我々は町田のことだけをまず考えればいいと思うので、教育プランとこの整合性みたいなものは当然出てくるだろうと思うんです。それで、町田独自のをやっぱり少し考えていかなきゃいけない。第五次になると特に何がどう変わってくるのか、それを少し踏まえるといいかなと思うんです。

まずそういうことから、第1点、子どもの読書、若者もそうですけれども、読書を対象とするんだから、本来なら、その推進委員や、あるいはそのチームの中に子どもたちを入れていく必要があると思います。どこかというと、今日、学校の校長先生が2人来ていらっしゃるけれども、学校が入ってこない子ども読書の推進なんて単なる理念にすぎなくなっちゃいます。具体の取組みはやっぱり学校がかなりの部分を持っていて、そして学校と一緒に共同して読書活動を推進するというのが本来の姿なので、まさに教育プランがそういうふうになっているので、学校と生涯学習、社会教育を一体化するというのが教育プランの方向なので、それから考えると、この読書活動の推進計画に、まず委員の中に、あるいはそのことに子どもたち、例えば中学生ぐらいだと、校長先生の前で申し訳ないですけども、図書委員とか、相当しっかりしています。そういう子どもたちの活動や、やっていることと組み合わせるとするのは1つ大きくあるんじゃないかと思います。そこについて全く入っていないかなという感じがします。それが1点。

それからもう一つは、私の友人が結構外国に行っているんですけども、非常に日本の漫画に対する批評が高いんです。だけれども、相変わらず、僕も校長をやっていたから分かるけれども、朝読の時間に漫画は読んではいけないと。今はもう何でか分からないですね。でも、そういうふうに言われているんです。でも、漫画はものすごいインパクトがあって、日本のアニメはものすごく、外貨を稼いでいるというのものもあるけれども、社会的にもう本当に無視できないということで、だから、読書の中に漫画を入れないというのは、もう随分前の昔の発想であって、少し変えた方がいいんじゃないか、町田だけでもいいから変えるといいんじゃないかと思います。それが2つ目です。

それから3つ目は、読書といっても、本当に幅が広がっていて、ちゃんとした本をきちっと読むのが読書、では、デジタルはということですよ。そういったものも本来入ってきているはずなんです。ですから、例

えば読書、本を読む率が非常に下がっているというんだけど、でも、僕は読書と作文というのは学校教育の中にもものすごく入り込んでいます。ただし、オフィシャルな形でちゃんとした読書というのではないかもしれないけれども、例えば本を読むとか、デジタルコンテンツを読むとか、資料を読むとか、そういったこと、それから書くにしても、作文だけじゃなくて、メモを取ったり、あるいは授業の振り返りでやったりするという、たくさん入ってきていますね。だから、そういう現代的な観点みたいなものも入れないと、旧態依然としたこれまでと同じ読書活動推進計画では、まさに次に続く若者たちをターゲットとして入れるということができないので、そのあたりを根本的に考えた方がいいんじゃないかなというのがあります。次に関連したお話で、次の若者たちの読書離れの解消という、そういう内容につながるので、ちょっと検討していただきたい。

例えば今、電車の中で本を読んでいる人はほとんど皆無ですよ。何も読んでいないかという、そうではなくて、みんな携帯を眺めていますよね。あれは読書じゃないといえばそうなんです。それから、漫画を読んでいる人もいないですね。雑誌なんか売れなくて、雑誌もどんどん購買数が減っているんですね。だから、そういうことから考えると、もう少し現代的な感覚をこの中に入れる必要があるんじゃないかというふうに思う次第です。皆さんもどう思われるか、ご意見をいただければと思います。

○委員長 ありがとうございます。3点です。図書館の方で、今の発言に対して回答があればお聞かせください。

○事務局 漫画の部分は、これから検討されていくのかなとは正直思う部分ではあります。学校に関しては、一応この計画自体を諮る会議がございまして、先ほどの推進体制の中で出てきました子ども読書活動推進計画推進会議になりまして、こちらの方にも校長先生等にお入りいただいて、学校の御意見等も踏まえて作成しております。その会議には、中学校のPTAの方であったりとか、小学校のおはなしボランティアの方が入っていたりします。そういった会議にも充てさせていただいて、作成しております。あとは図書館プランナーを今、若者を集めてやっていますので、今回の中には入っていないのですが、どうしたらみんな本を読むようになると思うとか、大きな投げかけになりますが、ヒアリングしている最中ですので、そういったものもコラムと併せて掲載できればなと思

っています。また、それを次回お見せできればと思っています。よろしくお願いたします。

○委員長 ほかに、今のG委員のご意見に対して、私はこう思うということでも結構ですし、あるいはこの計画自体について、何かご意見、ご発言があれば、おっしゃっていただければと思います。いかがでしょうか。

○E委員 今、G委員の話にもあったかと思うんですけども、子どもたちは、なかなか教科書は授業で仕方なく手にしていると思うんですけども、それ以外のところで、私も子どもにちょっと携わっておりますけれども、本を手にしているという場面とか、何々を読んだとかというのは、なかなかやっぱり聞こえてこないというのが実感です。自分自身を振り返っても、やはり手軽にそういった時間を潰せるといいますか、手に取るものがあるときに、あえて本を読むかという、なかなか皆さんもそう思われると思うんですけども、その中で、電子書籍サービスは、私は可能性がある前から思っていて、特に学校へ足が向かない子どもたちにもそういった1つの取っかかりとなると思います。

この間、駅前のタリーズに行ったときに、黄色いフクロウのカードがレジの横に置いてありまして、あっと思って目に留まりまして、私は手に取りました。そういった啓発活動、小さなカードだったと思うんですけども、それを例えば学校で子どもたちに配付とか、具体的な例で、そういった取組はされていらっしゃるでしょうか。そういうアクションがないと、なかなか子どもが自発的に市役所のホームを見たりとか、図書館にも足が運んでいないのは、何となくそうかなというふうに予想がつきますので、例えば配られるじゃないですか、まこちゃんダイヤルだったかな、困ったときには、このカードを持っていて相談してねというまこちゃんがありますよね。そういうのがあるかと思うんですが、それは配られますよね。ああいうような形で子どもたちに配付するというのも1つの手かなと思います。これは黄色くてかわいいので、私もレジでぱっと目に留まったようなもので、そういう取組もしていただけると、予算を入れてほしいなと思いました。

○事務局 黄色いのはブックローといって、電子書籍のキャラクターになっております。カード自体は、電子書籍サービスを使われていない方に対して、そういったカフェとかで手に取っていただいて、待ち時間や好きな時間にこういう便利なものがあるんだよ、使えるんだよというのを知っ

ていただきたくていろんなところで配布しています。学校の方は全生徒 I Dを持っていまして、簡単なマニュアルも学校向けというか、お子さん向けに作って、お渡ししております。結構学校では、活用に差はありますが使っていただいています。

この電子書籍サービスは、今後、アクセシブルな本としても活用できると思います。読み上げだったり、ちょっと活字の大きさを変えたかったりとか、いろんな意味でのこれからまだ活用していただけたらと思っております。そういった部分を計画に盛り込んでいこうかと思っております。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。今、皆さんのお手元に配られました。これは町田市のものなのですか。

○事務局 キャラクターですか。

○委員長 ええ。
誰かが描いたんですか。

○事務局 会計年度の職員が描きました。

○委員長 そうですか。大変すばらしいですね。

○事務局 駅前のカフェとか、いろんなところにちょっと配置をして、手に取ってもらえるようにしております。

○委員長 なるほど、いろいろアイデアがあって。I 委員は見ることはできますか。ありがとうございます。

○F 委員 不読率、第 2 章の 6 ページで、この不読率の数字なんですけれども、本を読まない子どもの割合が東京都の平均に対して、例えば小学 3 年生が、東京都は 4. 6 なのに 8. 3 で、町田市読まない子ども大勝利がずっと続いちゃっているんですけれども、東京都より少ないのは 1 年生、2 年生だけで、ちょっと我が目を疑う、これはまずいですよねと。これは町田の教育の敗北じゃない？ 違う？ ちょっとびっくりで、図書館で働いていた者として非常にショックですし、好きな子どもの割合も中学生になったら大負けしちゃっていて、びっくりしたんです。でも、提言

と取組のところは結構のんきな文言が、それどころじゃないでしょうみたいな文言が続いていて、これは結構深刻な問題とは捉えないのかなということ。

もう教育プランが、さっきG先生がやっぱり学校だとおっしゃいましたけれども、私もそうだと思っていて、決定した資料3、教育プランの116ページの30で、学校図書館の機能強化というのがありますけれども、その前のプランでは、司書を置くことを人数まで書いてあったのに、もう既にそれが無いという事態になっているので、これはどういう前文になるのか分からないですけれども、子ども読書の方は、もうちょっとこの数字を危機的に捉えた方がいいんじゃないかなと思いました。具体案はありませんが、感想です。

○委員長 ありがとうございます。そこら辺、どういうふうに分けられているか、あるいはどうしてこうか、という方向性があれば。

○事務局 こういった結果なので、計画の成果指標としては、今回そこを取り上げさせていただいて、少しでも不読率が下がるようになればとは思って設定はしています。ただ、取組一つ一つを着実に皆さんのお力も借りて何とかやっていこうということですので、すぐに数値が下がっていくかという、なかなか厳しいところかとは思っております。国と東京都の方も、その部分は大分力を入れるべきところであるというのは、何度も書かれていますので、そこは町田市も自覚といいますか、そういうふうに分けてはおります。ただ、設定を厳しくしても、なかなか現実が追いつかない部分もあると感じています。

○F委員 だから、私たちが図書館とか、文学館で例えば2歳児を集めておはなし会をやって、その後30分好きに本を読んでいいですよというふうに言うと、帰っちゃうかなと思うと、2歳児が30分間保護者とずっと本を読んでられるんですね。そういうことを積み重ねてきて、その威力は小学2年生までしか及ばないとか、一体学校は何をしてくれたんだと、ちょっとがくっと今しました。その辺をもうちょっと厳しく分けて計画を立ててもいいんじゃないかなというお願いです。よろしくお願ひします。

○図書館長 今もちょっと事務局の方から申しあげましたけれども、今期の計画と前期の計画の大きな違いの一つは、成果指標を設けたところでございま

して、前回までの計画には成果指標は特に置いてはいなかったんですけども、やはり今の不読率や本を読むことが好きというところは、このデータを見てのとおりだと思うんですが、やはりそこは力を入れて確認すべきであるという判断もありますので、成果指標というのは入れさせていただいて、確認していただければと思っております。

○委員長 ありがとうございます。資料7-2の8ページのところですな。

○図書館長 はい。

○委員長 ここら辺はどうなんでしょう。先生がいらっしゃいますが。

○B委員 針のむしろのようですね。先ほどからいろいろなご意見を聞かせていただいて、私も実はこの不読率を見て、割と愕然としているところなんですけれども、一応図書時間は学校にありますから、小学校なんかは特に確保しているんで、そういった時間で子どもたちは読書活動をするんですけれども、その読書活動でどんな本を読んでいるかなというところ、大体図書館へ行くと男の子は図鑑を開いているんですね。高学年はそこまでじゃないですけども、中学年あたりになると、図鑑を男の子たちがばっと集まって見ているというようなところはよく見受けられます。

特にこちら側から規制もしていないですし、読書についてのいろいろな啓発とか、そういったきっかけづくりなんかはするんですけども、なかなかそれを後押ししていくようなシステムが学校にないとか、例えば町田市の場合は、図書指導員という形の人はいらっしゃらない。やはり読書を多面的に捉えていきながら、それをちゃんと子どもたちに伝えていく。子どもたちの学齢期に合わせた読書活動をしっかり紹介していく。読み聞かせなんかもしっかりする。そういったことをちゃんと、その基礎部分というんですか、読書に向き合わせるための基礎部分が、これは言ってもしょうがないのかもしれないんですけども、町田はもう少し厚くしていった方がいいかなという気は、僕はしています。ほかのところから来ている身としても、それはすごく感じますので、やはり学校側の理由だけではなくて、ソフト面の部分も含めて整えていかなきゃいけないのかなというふうに思っています。

私のつくし野小学校の方で、昨年度、電子書籍のモニタリングはしていますので、そこでは電子書籍に関しては非常に評判がよかったです。

特に読書から離れちゃっている子どもには、音声教材、音声本、音声書籍、そういったものがとても有効だったというレポートもモニタリングした5年生からは上がってきているので、そんなことも含めて、いろいろ手を変え、品を変えじゃないですけども、こんなふうに学校の方でやっていかなきゃいけないのかなという部分と、あとはすごく小学校で感じているのは、小さい頃からの読書経験が浅いです。あまりない。要するに、それはきっと子どもの小さいとき、生まれてからすぐぐらいからでも、やっぱり親の読み聞かせだとか、そういったものの経験がどうなのかなというところはあります。今、親もすごく忙しいので、それこそ携帯を使って、携帯の音声を動かしているみたいな、そんな話もよく聞きますので、そういったことも含めて、もっと広い意味になっちゃうのかもしれないんですけども、日本語読書活動みたいなものをもう少し考えていかなきゃいけないんじゃないのかなと。

○H委員

今、B委員がおっしゃっていたものとかぶるんですけども、子どもだけに今読書を読め、読めと言ってもなかなか難しく、親御さんは忙しいから簡単な四角いものをぽんと渡して、その中で完結してしまう。子どもたちはその中にどんどんどんどん没入してってしまうという現状をなかなか変えるのはすごく難しいと思います。親御さんの意識、本当に家庭の意識が変わらない限りは、私は、今はちょっと難しいのかなと思いました。

資料7-4の取組一覧の方で、新規の方でいろいろ文学館のおはなし会ですとか、若者参画イベント、移動図書館の出張運行、文学館の新規の絵本、児童文学、これは漫画と書いてありますけれども、漫画を題材にした展覧会とかありますけれども、ここに漫画はあり、これはいいんだなと思いました。漫画に市民権があるというふうに思いました。その新規の事業を親御さんも一緒に巻き込んで、本って楽しいなあとんでもらい、親御さんの足が向くような方がいいのかなと思いました。

コロナでも、寝込んだときに、本を返さなきゃいけないという催促のお電話がありまして……。

○事務局

すみません。

○H委員

いいえ、いいんです。行きました。久美堂があると知ったので、そこに行かせてもらえたのはすごい楽でした。そういうこともあるので、一概に図書館は頑張っていないとは思っていません。今後も期待しており

ます。

○委員長

ありがとうございます。いろいろ意見が出ておりますので、ぜひ参考にさせていただければと思います。

ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、またこの計画については、もう少し出来上がったものが夏か、秋か、その頃に出てくると思いますので、そのときにまた改めて意見を聞かせてください。

それでは、以上で第五次町田市子ども読書活動推進計画についての議論はおしまいで、最後になりますが、若者の利用促進についてということで、図書館の方からお願いします。

○事務局

資料8-1をご覧ください。町田市立図書館の自習スペースの状況ということで、前回まで各館の規模による座席数に差があることですか、読書室はさるびあ図書館にしかないこと、また図書館における座席利用の基本的なルール等をご説明しました。それらについて委員の皆さんからいただいた主な例を資料の上の方にまとめさせていただいております。本日はまた、委員の皆様、全ておそろいということですので、改めてご意見の方をいただきたいと思っております。

資料の上の方、主な意見をまとめさせていただきましたけれども、図書館によって不登校児童生徒にここにおいでよという呼びかけはできないものかですか、場所について、図書館のスペースには限りがありますので、ほかの施設を案内してもよいのではないですかといったことですか、あとは委員の皆さんから時間を区切る、タイムゾーンというお話ですか、場所を分けるゾーニングというお話が主な意見となっております。あとは見ておいていただければと思います。

そういったところを受けまして、資料8-2なんですけれども、図書館の方でも既存の座席の状況では、時間を区切るか、あるいは場所を区切るとよいのではないかという意見をいただきましたので、まずは、各図書館の座席の利用状況を調べてみました。8-2、自習状況調査結果の表をご覧ください。平日の2日間、土日祝日の2日間、各館で机がある座席の利用状況で、その中で自習をしている人、自習らしい人を調べました。自習の判断につきましては、あくまで主観になるんですけれども、図書館の本を置かずに、持込みで勉強していると思われる人を自習とみなして数えております。また、中央とさるびあについては、閲覧席と読書室を分けて数えております。全体の状況としましては、調査が春

休みの期間で自習等の利用が落ち着いている時期のためか、座席が足りないということにはなかったように見受けられます。施設の規模や特徴が影響している部分をがうかがえまして、複合施設である鶴川駅前図書館につきましては、平日についても、土日祝日についても、自習をする人の割合が高くなっている傾向があります。座席も多くて、来館数も多い施設ですので、自習目的に通う人がいるのではないかなと考えられます。なお、中央の読書室以外に自習している人は、主にTEEN LIBRARY（YAコーナー）、こちらを利用している方が多く見受けられます。

鶴川駅前図書館ですとか、中央図書館のYAコーナーについてですけれども、読書室以外での自習については、現行の町田市立図書館のルール上、一番下の方に参考としてつけさせていただきましたけれども、自習が原則禁止されておりますので、厳密にいうとルール違反という形になってしまいます。黙って自習をしていたり、閲覧のふりをしていれば利用ができて、すごく正直に自習で利用していいかと図書館の職員に尋ねると、断らざるを得ない状況です。できませんというふうに言わなきゃいけないということで、職員の方も心苦しく思うところがあります。いわば正直者が損をするというような状況がありますので、この利用状況の方も踏まえまして、座席の利用ルールについては、今後、何がしかの変更が必要なんじゃないかなというのは図書館としても考えているところではあります。

資料に戻っていただきまして、四角の3番目です。自習状況を踏まえて、若者に図書館ができることについてということで、自習の状況と図書館のルールとの乖離について、改めて委員の皆さんのご意見をいただきたいと思っております。例えば自習を禁止するのではなくて、自習を認めていくことも考えられますけれども、もしそのような方針転換をする場合は、町田市の図書館としては方針の大転換となってきますので、図書館としましては、変えなきゃいけないなという認識はあるものの、慎重な対応が一方では必要だと考えておりますので、ぜひ委員の皆さんのお知恵をお借りしたいなというふうに考えています。

一旦ここで委員長にお返しします。よろしくお願いいたします。

○委員長

ありがとうございます。前回ですか、このことは議論していただきました。議論した内容は、8-1の最初のところに書いてあります。このときはフリーディスカッションのような形で話を進めましたが、今回は、下の四角で囲ってある図書館のルールの方を少し見ていただいて、

ここら辺、具体的にどうすればいいのかなという、図書館側が悩むところになりますので、そこにちょっと寄せた形でご意見をいただければと思います。

8-2では調査をしていただいた結果です。中央館の読書室は隣が空いているので多分2分の1ぐらいの数値だと思うんですね。例えば読書室は38席ですけれども、20ぐらい埋まっているということは、1つ空いているという状況で、そのくらいだと余裕を持って読書ができると思います。ぎゅうぎゅうになるとかなり窮屈な感じがしてくると思います。現状、席としては余裕があるという状況はつかめるかなというふうに思います。

ということで、今、事務局から話がありましたが、皆さんの方から、ルールに寄せてということはあると思いますが、ご自由にご発言をいただければと思います。いかがでしょうか。

○G委員

先ほどの読書の、大人もそうだけれども、読書が減っちゃっていて、それを増やさなきゃいけないと、それは確かに学校がやらなきゃいけないんですけども、やっぱりその中核になるのは間違いなく図書館だと思うんですよ。ですから、学校も図書館と一体になって、小学校の場合は読書の時間というのがあるけれども、中学校はなかなか難しい。教科がむしろ優先されちゃって、読書どころじゃないというのを言いたい訳なんです。それは校長先生おしゃる通りなのです。ただ、やっぱり読書というのをもう少し全体として高めることを考えていく必要がある。そのために、やっぱり中核になるのは図書館なので、例えばこれはちょっといい手なのかどうか分からないんですけども、1つの手法としては、本を借りてくれる人は自習室を使えます。冗談じゃなくて、本当に。

これは学校図書館で1回やったことがあるんです。学校図書館はスペースがあるんです。例えば学校のパターンです。昼休みに満杯になっちゃうんですけども、遊んでいる子が多いとか、うるさいとかあって、それでいろいろ考えて、本を借りる人が優先的に使えますというふうにして、そうすると、3分の1ぐらいに減るんですけども、すごく静かに静まり返った経験があって、それは教員と協力してそういうふうにしたんです。つまり自習室というのは、ただ自習している訳じゃなくて、本当は参考文献なんかを読みながら自習するというのは昔からあったし、それは探求の中の学習なんかでも絶対必要なので、大学としてはほとんどそういうふうになっているんですよ。

だから、ちょっとその条件をつけて自習室を、読書場として逆に使えるような形にする。そこで、空きがあれば自習してもオーケーみたいな、そういう時間を2時間とかで区切ってもいいんだけど、そういうこともあるなと思うんです。それで、うちの近くに調布図書館というのがあるんです。ものすごく借りられる本数がありますが、そこは閲覧室の周りに椅子があるんです。その椅子にみんな座っていて、ほとんど満席状態なんですけれども、みんな本を読んでいますね。それは借りた本でもいいし、そこにある本を座って読んでもいいし、非常に贅沢な感じで、そういうふうな、だから、発想を転換して、本を借りたり、持っている人は自習室を使えるというような、そんな形もあるかもしれないなということを思いました。

○委員長 G委員、例えば、本は置いてあるけれども、自習しているというのは、それは許されますか。

○G委員 許されると思います。

○委員長 とにかく本を……。

○G委員 だから、むしろ自習室の活用、図書館の活用もさることながら、読書ということに対する価値をもっと高める、付加価値を高める必要があるんじゃないかというふうに思うんです。これはほかの国はどうか分からないんですけど、今、アメリカの学生なんかはものすごく読書していますし、というか、授業の中で使うからどうしてもやらざるを得ないので、ものすごく勉強していますね。それはみんな図書館でやっているんですけど、だから、本当は教科の中にもっと読書活動とか本とかを取り入れるということが必要なんだけれども、そこがなかなか日本ではできないかもしれないです。少なくとも読書の価値みたいなものをもっと全体として高めなきゃいけないくて、読書のさっきのお話、司書の話もあるんですけど、本当に司書の給料なんかも安いし、みんな暇な人がやっているぐらいにしか思っていない。やっぱり専門職としての読書とか、図書館というのをもっと高く評価しなきゃいけないんだけど、日本はそれができていない。だから、最悪、読書活動とか、読書については、うんと支援していくとか、高く評価していくということが全体として必要なんじゃないかなと思います。

- 委員長 ありがとうございます。ということで、条件をつけるということですね。1つのアイデアですけれども、ご意見をいただきました。
- D委員 いろいろ意見があったんですけれども、私的には、実際にわいわいキャレルとかを利用している本人たちに意見を聞いてみるのがいいんじゃないかなと思っていて、例えばグーグルフォームとかで今はアンケートとかができるので、そういうのをわいわいキャレルとかのスペースに、紙に、QRコードとかを貼ってみて、平日でも利用できるようにしたいとか、ほかにも自習できるスペースが欲しいのかということ聞いてみるのが一番いいんじゃないかなと思いました。
- 委員長 実際に今来ている人にどういうふうに考えているかですね。ありがとうございます。
- E委員 町田市子どもにやさしいまち条例の方を整えていらっしゃいます。先ほどのG委員のお話もあったように、少し強引にでも、町田が子どもに向けてこういうスペースを開放しているよとか、こういうときに利用したいときにやれるんだよというメッセージを強く打ち出してもいいんじゃないかなと思います。先ほどもF委員が解説してくださった愕然としたデータを改善するためにも、ちょっと力強い決断をしていくことが、ただ、やっぱりそれは受け取る側に届くと思うんですね。先ほどのこの黄色い方でもそうだと思うんです。紙でももちろん配って、IDも持っているかもしれないけれども、やっぱりさらにそういう視点で町田は子どもたちのいろんな意見とか、思いとか、そういったものを反映するものを持っていますよという1つのアプローチにもなると思うので、そういう視点からもぜひ自習室という子どもたちにとったら、特に居場所を求めている子たちですね。おうちで例えば勉強する環境にない子どもたちもいると思いますので、そういったところに少し視点をとりました。
- 委員長 ありがとうございます。E委員としては、そうすると、自習等も可能だよということで、子どもたちに図書館にまずは来てもらうということですね。
- E委員 すごい突拍子もないことを言ったら、自習していますみたいなぐらいをやって、堂々とできるような感じが私は、子どもは勉強しようと思っ

て、意外と場所がないですよ。学校はもちろん、部活とかに時間を空けなくちゃいけないとか、実際、これを見たら、14時でもいますものね。これは年齢層がちょっと分からないですけども。という訳なので、そういうのに使って、大人はそういう点では、喫茶店にも、カフェにも行けますけれども、そういうことをできないと思うので、やっぱりそういう場所があるよ、使っていいんだよというようなメッセージはありがたいなと思います。

○委員長 分かりました。ありがとうございます。

○H委員 何度も、何度もここで子どものことで発言させてもらっているんですけども、本当にゾーニングと時間を分けるということで解決ができるような気はしています。現に17時以降、中央ですけれども、ほぼ自習です。23席まで22名、祝日も14時以降、20席で18名、これがニーズ以外に何を表しているんだらうかということだと思えます。前回もお話しさせてもらったんですけども、多摩の図書館は自習をしてはいけないという概念が全くないので、自習オーケーという形になっていますので、そこまで今町田の図書館に求めるというのはないんですけども、時間と場所を区切るというところで解決はできるんじゃないかなと私は思います。

○委員長 なるほど。今、中央館は、読書室は、一応自習はできるということなんでしょうか。

○事務局 はい。

○委員長 だから、今のH委員の話でいえば、例えば一般の通常の座席等も、例えば夜とか、そういったときには自習オーケーにするよとか、そういうこともあり得るということですかね。少人数、時間を分けるということですね。ありがとうございます。

○I委員 A委員、ご存じのように、この問題はずっと昔からあるような気がして、席貸しの問題としてあると思うんですけども、いろんな図書館を見て、確かに自習オーケーの図書館で新しい図書館となると、中高生がすごくたくさんいて、活気があるようにも見えつつも、誰も図書館の本は手に取ってなくて、図書館である必要があるのかと思われるよう

な、新しい駅に入っている図書館ってそういうのがいっぱいあるんです。穏当な第一歩の解決策としては、これもいろんな図書館で聞きますけれども、自習をされる方はもし図書館資料をご利用の方がいたらお譲りくださいみたいな、そういったような中間策というような方法をまず実施してみるというのが、図書館職員の方々のメンタル的によいものであると思います。図書館資料を利用したいんだけど、席が埋まっているというような問題に関しては、図書館員の方が仲介に入っていて譲るということを積極的に促せるということになりますし、自習していいですかと聞かれたら、ほかに図書館資料を使いたいという方がいたら、譲ってあげてくださいねというような形で、席が空いていたら、自習を認めさせることができますので、第一歩としてはいいのではないかと。つまりいきなりゼロ、100で、ゼロのものを100にするんじゃないかと、中間策として実施してみるのもいいのではないかとこのように私は思うところです。

もう一つは、ゾーニングの話が、先ほどH委員やいろいろな方から挙げられたと思うんですけども、なかなかこの図書館も書き込みなどの問題があって、問題集とかをあまり積極的に選書しないというようなところが多いと思うんですけども、ある意味では、そういったような中高生の学習、自習を促すようなコーナーをつくるのも悪くはないのではないかとこのようにも考えているところです。それこそ問題集が買える子、買えない子、いろんな参考書を見られる子、見られない子がいる中で、塾に通える子、通えない子がいる中で、図書館でそういったものを多く取り扱うというのが難しいところとか、収集方針とかいろいろありますので、すぐには難しいかもしれませんが、そういったコーナーなどをつくってみることで対応してみるというのも悪くはないかと私は思っています。

○委員長

ありがとうございます。優先順位のこと、あるいは一つのアイデアとしてゾーニングということのご意見でした。非常に幅広いご指摘が出ております。幅広く認める意見もあれば、何らかの条件、G委員がおっしゃっていたように、図書を一応借りるという条件をつけるとか、あるいは時間、ゾーニングで区切る、あるいはそこら辺をちょっと緩やかにして優先順位をつけて、図書利用を優先させるとか、かなり幅広い御意見が出てきました。ここで何か1つの案にしなければいけないということではございませんので、まだご発言がもしあれば、ご自由にご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。あと実際に聞いてみてはどう

かということです。

今の意見について、図書館側で意見はありますか。

○事務局

G先生に言っていただいた条件をつけるとかというのは、図書館の中ではない発想だったので、いろんな意見を伺いまして、ますます悩んだところもあるんですけども、非常に多様なご意見がありましたので、これを基に検討を深めていきたいと思えます。

○委員長

だから、市民の意見というのはかなり多様かもしれないですね。

○G委員

先ほどQRコードの話がありましたね。これもそうだけれども、QRコードはすごく便利なんですよ。あちこちに置いておいて、QRコードによって読書活動推進計画、あるいは図書館運営に協力してくださいとか、参画してくださいという感じにして、意見を吸い上げるというのはすごくいいアイデアだと思う。だから、自習室にそれを置いておいて、自習する人には協力してもらおうとかということもあるだろうし。

それから、先ほどの資料7-3の1ページ目、この概念がそもそももう駄目なんじゃないかと。つまり、読書は本、図書を読むことで、「『読書』には教科書、参考書、マンガは含まない」と書いてあります。これがもう時代錯誤です。例えば子どもたちに来てほしいならば、もし最新の参考書なんかがなかなか買えないじゃないですか、貧乏とかで。それから、参考書と一般書も今線引きが非常に、先日、僕もインド式数学の何とか、算数の何とかというのを買って来たんだけど、そういうのが今、一般書で出ているんですね。だから、その線引きが非常に曖昧になっていて、結構参考書的なものも多く。それから、皆さん、ご存じかどうか分からないですけども、教科書は、国語なんだけれども、3社しかなかった。昔は、小学校は6社も教科書をつくっていたんですけども、もうそれが3社ぐらいになっちゃって、中身を見ると面白いんですよ。教科書は読み物としてすごく高度です。例えば社会科や理科の教科書は今のはちょっと面白いです。そういうようなものを大人が見てもいいんじゃないか。だから、教科書、参考書、漫画については、もう少し前向きにというか、少し新しい領域で考える、そのことについて市民のご意見をQRコードとかなんとかというのを双方向でそれができるようになると、ちょっと面白いんじゃないかなと。

だから、読書活動推進計画の一番の中核はやっぱり読書なので、読書を何らかの形で深めて、それで興味を持ってもらう。そのためには、や

っぱりきっかけとしてのいろんなところがあるけれども、図書館が一番中核だから、そういういろんな方向でやっていくというのはどうでしょうか。

○委員長 ありがとうございます。私もこの7-3の四角の囲みの「マンガ」は違和感を感じたんです。座席のほうの話に戻れば、やっぱりかなり多様な意見が市民は持っているということであれば、最終的には、図書館が一体どういう場として、どういうものを目指しているのかということとも関係してくるのかなという気はいたします。どういうサービスをしたいのかですね。

 ほかはよろしいでしょうか。

 それでは、意見も出尽くしたようですので、自習室の利用方法については以上とさせていただきたいと思います。

 では、次第では6、その他になっておりますが、その他何かございますか。

○事務局 続きがあるんです。

○委員長 もう一つありました。すみません。

○事務局 貴重なご意見をありがとうございました。質問の2つ目です。若者の利用促進の一環として自習スペースの話をしておりましたけれども、例えば前々回の会議の中で不登校児の居場所について委員の皆様からお話が出ていたかと思っております。皆様、ご存じのとおり、不登校児の件につきましては、教育センターをはじめ、学校、教育委員会が中心となって対応しておるところなんですけれども、今回の議論を今まで委員の皆様いただいた意見なども踏まえまして、内部で重ねていく中で、同じ教育委員会として、生涯学習部としましても、しっかりとこの問題に関して検討しておいた方がいいという意見が出ました。そこで、図書館としてできること、できないことがあると思うんですけれども、どのようなことを図書館ができるか、また求められているかのご意見があれば、お願いいたします。

○委員長 ありがとうございました。今お話しいただいたのは、前回、少し不登校の話が出ていたと思います。私もほかの自治体の図書館協議会の中で不登校の問題はかなり取り上げられています。特に図書館が、何ができ

るかということで話題になっております。

不登校児童生徒の居場所について図書館としてできることについて、皆さんの方で何かご意見、アイデア、そういったものがあればお出しいただきたい。あるいは学校なんかでは、今、学校図書館登校みたいなことが進んでいたりしないのでしょうか。

○B委員 図書館の利用ということで不登校児を受け入れるという感じではないですけれども、本当に不登校の様態は多様なので、それを読書活動というか、そこに結びつけることはなかなか難しいところもあるんですけれども、もちろんほかのお子さんがいるときには来れないんですけども、子どもがいなくなれば来れるという子どもたちもいるので、そういう子どもたちに放課後、いろいろな学習機会を与えるために図書館利用というのがあると思うんです。あまりそこら辺が活発に活用されているかという、そういうことはないと思います。小学校は保健室ですね。

○委員長 中学校はどうか。

○C委員 中学校は、不登校の生徒の居場所づくりをしている学校がかなり増えてきております。いろいろな教室ですとか、スペースをいろいろな活動に使ってしまって、図書室がそれに適切だということであれば、そこを使うということもあると思いますが、あまり保健室登校とか、そういうのは中学ではないんです。小学校は結構ありますけれども。だから、多様な学びを保障するというのも町田市教育プランの24-28の中にもうたわれておりますし、フリースクールなんかについても、学習実態を見て、登校日数に含めるというようなこともありますので、図書館が居場所となる生徒であれば、それは十分活用していいんじゃないかなと思います。

本校もかつてはワーキングスペースのような有料で使うオフィスみたいなところがありますね。フリースクールに通いながら、そこで1日勉強しているというようなお子さんもいたりしたので、そういう使われ方、ただ、補導されてしまうというような危険性もあるんですけれども、私服で来ている子どもがいて、訳ありだったら、司書さんの方で声を聞いて、そういうことなのねというような形で認めてあげるというのはどんどんやってもらって構わないんじゃないかなと思います。

○委員長 学校、あと公共図書館というのは、比較的安全で、それほど気兼ねな

く行ける場所でもありますので、そういった場所をどう生かせるかというところもあるかと思えますけれども、何か皆様の方で……。

○G委員

この不登校というのをいろんな形で、もちろん学校側が受け入れたり、体制を整えたり、個別最適化するというのはあるんだけど、全部が全部、できることではないし、そもそも学校が嫌だから不登校なのに、学校と同じようなところをつくってどうするんだという中で、不登校支援のセンターなんかもやっぱりちょっと行くのが難しいということで、まさにニーズが多様だと思えます。

図書館というのは、やっぱりそういう意味で社会教育の中に入っていて、生涯学習なので、比較的学校よりも自由にできる。例えば制服でなければ図書館に来ちゃ駄目だとかというのはない訳ですから、ぶらりでも行ける訳です。そういう意味では、より柔軟な学びの場として機能するという可能性はすごくあると思えます。でも、そのときに条件が幾つかあって、1つは、まず、子どもたちが学べるような、例えばさっきの教科書の話なんですけれども、教科書があるかどうかみたいなことと、それから、デジタルコンテンツも本が売れるということなので、教育系のデジタルコンテンツ、百科事典とかがあって、それが使えるかどうか。だから、やっぱり条件を整える必要はあるかなと思うんです。

不登校児童生徒が、例えばここに来て、1日いたということが証明できれば、学校出席扱いにしてもらえるみたいな、そういう柔軟な対応も今後出てきてもいいんじゃないかなと思うんです。変なところに行くよりは、図書館にいた方がずっと安全だし、学びは可能だし、場合によっては、それはちょっと難しいかもしれないですが、割と図書館って年配者がいっぱいいますので、暇な年配者と個別的に、ちょっと分からないですけれども、不登校児童と仲よくなるとか、ちょっと面白い生き方もできるかもしれないし、そういう場や機会があってもいいのかもしれないというふうに思います。だから、不登校の児童生徒の居場所の一つとして図書館が機能するような方向はやっぱりちょっと考えていく必要があるかなと思います。

○委員長

先ほど図書館の方から聞いたんですけれども、八王子なんかが出席扱いにするかどうかということのを少し考えているという話でした。一足飛びにという訳ではないと思いますが、そうした動きもあるということです。

○H委員

先ほどD委員がおっしゃっていたご意見にすごく賛成なんですけれども、若者の意見を聞くというのはすごく大事かなと思います。大人が幾ら考えても、やっぱり当事者の痛みというのは当事者が一番分かるのかなと思うので、私は当事者に聞くのが一番いいのかなと。当事者といっても、学校を選ばないお子さんたちの意見表明の場というのはなかなか難しいとは思いますが。やっぱりそこを同年代の人たちが、その人の気持ちを酌みながら考えるというのはいいことかなと思います。せっかく町田の図書館で図書館プランナーというのがあるので、これは今イベントとかだけだったりするのですが、そうじゃなくて、図書館を居場所にするのはどうしたらいいのかという方に方向性にチェンジしてもらってもいいのかなと思います。

前回もお話しさせてもらったんですけども、湘南工科大学の附属高校で図書室登校というので、子どもたちが先生たちと話をしながら、どんな図書館でいたいのか、自分たちの居場所を、決まりのない自由に過ごせる居場所をつくるという取り組みを生徒たちがやっているということがあったので、そのことができるような気風というものを、図書館にできてくれるといいのかなと思ったりはします。ただ、前に館長がおっしゃっていたかと思うんですけども、教育委員会の方針の中に、そのことがないと図書館はそれがなかなかできないというのがあったと思うんですけども、その辺はどうでしょうか。

○図書館長

教育委員会の方針といいますか、やっぱり学校側の方の考え方と我々社会教育の考え方というのは、ある程度合致をしないといけないというのは当然あるんですけども、当然今、幾つかお話が出たと思いますけれども、学校教育部の方も不登校のことについてはいろいろ考えていらっしゃるって、生涯学習の方もやっぱり一緒に考えていかなければならないというのはお互い考えているところなので、そういう意味での改善は今あまりないのかなと思っています。

やはり不登校の方は、皆さん、図書館が長いので、ご存じだと思いますけれども、今までもずっと図書館ができてから、学校に行っていなそうなる子がいるなというのは、しょっちゅう来ているのを横から見守っているというのは、日本中どこの図書館でもやっているんですけども、そこからどういうふうに一步進めるかというのは1つあるかなとは思っています。あとはそれをどういうふうにするか。

今、八王子の例を委員長に出させていただいたんですけども、一応多摩30市町村の館長さんにちょっと聞いてはみたんですけども、具

体的に今これをやっていらっしゃるのは八王子市さんだけみたいなんです、やはり社会教育だけではなくて、ほかの施設でもそういう形で、図書館以外の施設でも、学校の紹介でその子に合ったプログラムなりなんかをそこに来ていてやるようなことを八王子さんはやっていらっしゃいます。そこはもうちょっと詳しく聞こうかなと思っています。ただ、やはりまだ、それが出席になるかどうかみたいなのはなかなかこれからの検討だというふうにはおっしゃっていました。

あとは現場の方に聞いてみると、図書館プランナーが聞いてみるというのは確かにあると思うんですけども、今、図書館プランナーも私も紹介したんですけども、やりたいことをやっているということでも来てもらっているので、あまりこちらからお題を出してどうするという話ではなくて、逆にそういう気持ちの中で、お友達がどうかみたいなのが出てきたときには、そういう中をうまくやっていくというようなやり方かなと思っています。そういう意味でも、そういう自由度みたいな話があるので、それは裏表で不登校とつながると思いますので、そういうご意見は多分持っている子たちだと思うので、そういうのはちょっと様子を見ながら考えていきたいと思っています。

○H委員

ありがとうございます。今ちょっと思ったんですけども、認知症のDカフェってあるじゃないですか、Dボックスとか。やっぱり世間の人に認知症のことを理解してもらって、家族にもこれから押し寄せてくる認知症の介護という部分で、前もって知っておくという予習の部分でもDボックス、Dカフェというのがあると思うのです。それと同じように、不登校の子たちの特集というのを図書館でしていただきたい。やっぱり図書館を利用している大人の目は、不登校の子たちにとってはかなり痛いのだと思うのです。視線ってかなり痛いんですよ。「こんな時間に俺は来ていいのか、みんなにどうやって見られちゃうの」というように。その視線を和らげていただくという役割も図書館にはできるのかなと思います。

○委員長

ありがとうございます。

○G委員

何回も言いますが、教育プラン24-28というのは、学社融合のそういう方向性を出した結構画期的なものだと僕は思っているんです。ですから、これはもちろんいろんな課題があるだろうけれども、これは多元的なもので、PDCAじゃないけれども、とにかくサイクル

で回していくということなので、必ずしもこれは固定的なものとして28までこれでそのまま行くかという感じではないはずですが。要するに、多元的なものだと、そういった沿線の中に図書館の機能みたいなものも恐らく入ってくると思うので、それは図書館がやっちゃいけないよということはないんじゃないかなと思います。

それで、図書館ってよく考えたら、地域の学びの場ですよ。一応分館がありますから、各分館に行く学校がある訳ですから、その学校とうまく連携を取っていただいて、その子たちがそこに来て大丈夫なようにする。それから、先程の事務局の説明であった新しくできたコミュニティカフェ、コミュニティ図書館ですか、それなんかは完全にそういうふうな方向で、分からないですよ、委託業者がどう考えるか分からないけれども、恐らく事業としてもやれるようなことを考えることもできるんじゃないかと。だから、委託が全部いいかどうか分からないけれども、委託にすると、やっぱり南町田の図書館みたいに、ちょっと違うことができるということで、そういう中で、不登校の対応みたいなものも一緒にやっていくことができるかもしれない。可能性ですね。とにかく図書館が不登校というよりも、全ての子どもたちの受皿というか、第2の居場所になるようなことがあれば、読書活動にもつながるし、本にもつながるし、若者の図書館のアクセスの強化につながる可能性があるんじゃないかなと思います。

○E委員

日頃、特に子どもたちと接することが多いので、やはり日頃の居場所が欲しいという子どもの声から私たちはフリースクールを始めたんですけども、切実な状況がある子もいます。携わっている間に、本当に多種多様なので、決して今、これとか、これとかではいけない訳です。ですので、図書館がその居場所で、先ほども言いましたように、子どもに優しいまちづくり、ここにいていいんだよということを発信することもすごく大事だと思いますし、またそこに来たときに、図書館が何かをキャッチしたときに、次のステップにつながるような連携、それがしっかり教育委員会のほうで組み立てていただけたところまで行ったら、すごく機能するんじゃないかなと思います。

○委員長

ありがとうございます。そろそろよろしいでしょうか。

それでは、議題の方は以上にさせていただきます。6番、その他でございますが、何かございますでしょうか。

それでは、事務局にお返しします。

○事務局

活発なご意見、本当にありがとうございました。長時間お疲れさまでございました。次回の開催は8月1日木曜日、また同じ時間、この場所でという形になりますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。